平成３０年度羽島郡二町「立志塾」の取組

羽島郡二町教育委員会

１　はじめに

羽島郡の小・中学校では、児童会や生徒会の活動として、「豊かな町づくり（学校づくり）に向けて、今、私たちができること」をテーマに、挨拶運動を核にして地域貢献の活動を推進してきた。また、個々には地域ボランティアに進んで参加し、自分の意志で行動できる児童生徒が増えてきている。さらに、活動を通して地域の多くの人々と接する機会が増え、そこから学ぶこともできるようになってきた。

今、羽島郡の将来を考えたとき、それぞれの学校を児童生徒の立場からリードしていく人材育成を図り、共通の目的のために、お互いに知恵を出し合い、責任ある決断と行動がとれるような「意志あるリーダー」を育てることが急務である。そこで、羽島郡では平成２６年度より実施している２学期制における前期・後期の間に設けてきた秋季休業日を利用して立志塾（強い意志をもつリーダー育成事業）を実施してきた。今年度で５年目を迎える事業である。

２　目　的

急速に変化し予測不可能な未来社会において、自立的に生き、他者と共生・協働し、知恵を出し合い、未来を切り開いていく力を育成する。

３　対　象

小学生：６年生の児童会執行部及び後期執行部で活動したいという意志がある児童
中学生：２年生の生徒会執行部及び後期執行部で活動したいという意志がある生徒
　　２年生の委員会委員長及び後期委員長として活動したいという意志がある生徒
　　１年生で後期及び次学年で、リーダーとして活動したい強い意志がある生徒

４　主　催

(1) 主　　催　羽島郡二町「立志塾」実行委員会
(2) 実施期日　平成３０年１０月８日（月）～１１日（木）　３泊４日
(3) 場　所　　高山市（国立乗鞍青少年交流の家、飛騨世界・生活文化センター、高山祭）
　　飛騨市河合町、大野郡白川村
(4) 参加者　　小学生 16 名（男子：6 名、女子：10 名）中学生 16 名（男子：4 名、女子：12 名）
(5) 実行委員　顧問（岐南町長、笠松町長）、委員長（塾長・教育委員）、副委員長（教育長）
　　委員（地域の代表者、学識経験者、教育委員会事務局員３名）
(6) 講　　師　飛騨・世界生活文化センター　統括　六角 裕治　氏
　　国家公務員（現国土交通省係長）　　古屋 圭織　氏

５　活動内容

(1) 事前研修　３回

事前研修①

ア、講話Ⅰ：塾長講話「『立志塾』で学んで欲しいこと」

大変革するこれからの社会の中で求められる能力（社会人基礎力）について、経験が何よりも大切な礎になることを学び、これから始まる立志塾のねらいについて、一人ひとりの認識を高める講話となった。

イ、講話Ⅱ：立志塾 OB（高校生）からの講話「立志塾で得たもの」

自分の中にある自分の壁を破る機会である。小さなことでも本気になって取り組むことが大切で、やろうと挑戦するときは、必ずついてきてくれる仲間がたくさんいる。努力しないことには感動はないし、後悔の対象にもならない。大きな事を成し遂げるのは難しい。自身が悩みながらも乗り越えて

きた体験に基づいた話で、塾生たちの心に直接響くものになったと感じている。

ウ、英語の活用Ⅰとグループ活動（テーマ別交流会）

事前研修②　白川郷学園との英語交流に向けて（英語活用Ⅱ）

事前研修③　グループ活動「テーマ別交流について」と英語活用Ⅲ

（2）当日の研修内容

１日目

① 河合町歌舞伎保存会及び河合小学校児童との交流

河合町歌舞伎保存会の方から、地域の小学校とともに行っている文化継承についての取組の現状を聞いた後、塾生全員が河合小学校の児童とともに歌舞伎の化粧を行い、最後には布に写しとり、その出来栄えに感激する姿が印象的であった。塾生たちにとって、普段はできない貴重な時間をすごすことができた。また、地域を愛する人の思いと文化に触れ、自分たちの町にある文化やそれを守り伝えようとする地域の人の願いを強く感じとる時間となった。

② 講義Ⅰ　国家公務員（現国土交通省係長）　古屋 圭織　氏

古屋氏からは「羽島郡の小中学生に期待すること」として、どうあるべきか考え続けること、自分をよく見つめること、努力したという経験をもつこと等について話していただいた。さらに塾生たちに向かって「トライ＆エラー」を繰り返すことで自らの可能性に挑戦してほしいとお言葉をいただいた。

２日目

白川郷学園の児童・生徒との交流

事前研修で練習してきた英語を駆使して白川郷学園の児童・生徒と一人一人が自己紹介等を行った後、白川郷集落へ移動し、外国の観光客の方々とコミュニケーションをとった。何度か話しかけるうちに外国人との方との会話が楽しくなり、自分の英語に自信をもち始め、それぞれが英会話を楽しむ様子をあちらこちらで見かけることができた。一人一人がチャレンジすることの楽しさを実感する機会となった。

３日目

① 日進木工 工場見学

日進木工常務取締役の北村氏から、世界に発信する家具作りにおける信念や情熱を語っていただいた。その後、４グループに分かれた班毎に一人ずつ案内役を配置していただき、丁寧に工場見学をさせていただいた。日進木工社員の手厚いもてなしを受け、感謝の念が絶えない。様々な立場の方の高い志と情熱を感じ取ることができ、塾生にとっても大きな刺激を受ける貴重な時間となった。

② 講義Ⅱ　飛騨・世界生活文化センター　統括　六角 裕治　氏

六角氏からは「リーダーで大事なこと」として、「差別はしない、でも区別は必要」「文章は芸術」「人とうまく話し合える人になろう」「好きなことをするときは、リーダーになってはダメ」「できないと思った瞬間に、初めてのことはできない」等について話していただき、リーダーとしての心得を見直すとても貴重な機会にすることができたと考える。

４日目

A. 差別がなく、誰もが安心して暮らせる社会の実現
B. ごみを減らし、ものを大切にする社会の実現
C. 文化や生活様式の異なる人たちとも、区別なく認め合う社会の実現
D. よりよい地域を目指し、手を差し伸べあう社会の実現

討論ゲームからシンポジウムへ右に示した４つのテーマで「今、私たちができること」について議論し提案する。自分たちができることにこだわり、両町長の前で提案した。事前研修からテーマごとにグループにわかれ、準備をしたことをもとに２日目、３日目とテーマ別の討論を繰り返した。シンポジウム本番では、テーマに沿った現状を分析し、課題を洗い出し、自分たちには何ができるのかを宣言する姿に成長を感じ、今後の活躍に期待が寄せられたところである。

６　終わりに

塾生の様子を見ていると日常体験の乏しさを感じる。学年が上がるにつれ、ゆとりのない生活を送るようになり、様々な体験から学ぶ機会が減少している。このような現状の中で、子どもたちに様々な体験の機会を意図的、計画的に提供していくことの必要性を強く感じる。現在羽島郡においては、子どもたちが地域社会の中で大人とともに、ボランティア活動に取り組んだり、地域行事等に参画したりする機会が豊富に準備されている。立志塾を地域の一員として自分たちの住む地域社会の問題を自分のこととしてとらえる機会としてもてるようにすること、大人たちと夢や希望を共有できるようにするこのような経験の積み重ねが自ずと豊かな人間性をはぐくみ、主体的な姿勢を身に付けることにつながっていくことを願っている。